

イノシシさん来ないでね

昨今、田舎はもちろん都会でも、アライグマやイノシシ、鹿といった動物が出没して市民生活を脅かしている。私たちの町でもアライグマやイノシシが田畑やぶどう園に出没して町民を困らせている。

最初はカラスだった。ブドウが色付き少し美味しくなったころ、加西市内、及び周辺のカラスがみんな寄ってきたのではないかと思われるほどカラスの大群が押し寄せた。そしてぶどうの袋を破り食べた。このため、ぶどう園の外周と、木に被せたビニルシートの上からネットを張った。

次に来たのはアライグマだった。西瓜や瓜やトウモロコシを上手に食べた。アライグマは木に登るし、小さな隙間からも入るため、ぶどう園の周囲とぶどうの木の上に被せたネットの隙間を無くすことを心掛けた。

その次に来たのはイノシシだった。イノシシは休耕田に植えた飼料用のトウモロコシを食い荒らした。六〇aの田に植わったトウモロコシを一週間で食べ、踏み荒らした。また、サツマイモも大好物で、一晩で、すべて食べられてしまったと言った声も聞かれた。

私が朝、田の見回りに行つたとき、一頭の親イノシシと五頭のウリ坊を見かけたことがあった。田にいるうちは稲が食い荒らされたで済むだろうが、家の周辺の畑まで来ると、人に危害を加えることもあり、注意しなければならない。

ぶどう園にも入ってきた。ぶどう園にはわらが敷いてあり、その下にはミミズがいることからぶどう園を掘り返した。

また垂れ下がった枝を引きちぎりブドウも食べた。このため、園の周りに電気柵を設置したり、コンクリートをした時にヒビ割れをしないようにする網目になった金網を巡らしたりしている。

我が家は大枚をはたいて電気柵を設置した。これで害獣の侵入は防げたが、柵の管理に苦労している。電気柵は三千ボルト以上の電圧が掛かっているためぶどう園に入るとき注意しないと電線に触れるとビリビリと感電することがある。また、草が生えてきて電線に触れると草を通って電気が地中に流れてしまい、防護効果がなくなってしまう。このため、草刈り等、日ごろのこまめな管理が必要だ。

町で防護柵を作ることになった。山から民家に降りてこないように、山裾にフェンスを張るのだ。総延長一、五キロになり、業者に頼むと大きな金額になるため、村役たちは何とか安くできないかに知恵を絞った。

市を交えた協議の結果、フェンスの設置はできないが、町民の皆さんがフェンスを設置するのであれば、資材を現物支給したいとの話になった。

町は、工区を三ツに分け十一月から二月まで月一回、半日の出役で工事を実施する計画をたてた。工事は、予定ルート上の木を切り、雑木、竹、草を刈り、二、五mピッチでフェンスの支柱を立て、支柱にフェンスを張ることになった。

支柱を打ち込むのが重労働だった。専用の工具で打ち込むのだが、木の根や石に当たるとそれ以上入らないため場所をずらして打ち込んだ。通常は二人で作業するのだが、四人で行っても一本打ち込んだだけで息が上がった。

フェンスが設置できても、維持管理が必要だ。春以降は芽ぶいてくる草や雑木を刈り取らなければいけないだろうし、フェンスの下に穴を掛けたりフェンスを破ったりしていないかの点検をする必要もあり、仕事が増えるばかりだ。

今、山林等にある土地の有効活用を図るため、太陽光発電装置が各所に設置されている。このため、タヌキやイノシシ等の動物の棲み処が奪われている。彼らにすれば、食べ物のある、民家や田や果樹園に降りてくるのはしかたがないのかもしれない。

最近ぶどう園で鹿を見たという人が現れた。鹿は跳躍能力に優れており、今作っている二mの高さのフェンスは飛び越えてしまうかもしれない。動物と共存できればいいが難しい問題だ。

平成二十八年二月